

現代アートチーム目 [mé]によるアート作品《まさゆめ》 世界から「一人の他者」を眺める

東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京が主催する Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル 13 のひとつで、現代アートチーム目 [mé] が企画するプロジェクト《まさゆめ》。大きな反響を呼んだ7月につづき、再び、巨大な「誰かの顔」が、場所を変えて東京の空に浮かびました。



<8月9日浮上の様子>

※8月9日に浮上に挑戦しましたが、天候の影響により中断・順延し、本日改めて実施しました。

撮影：金田幸三



撮影：津島岳央



撮影：小林空

目 [mé], 《まさゆめ》, 2019-2021, Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル 13

《まさゆめ》は、年齢や性別、国籍を問わず世界中からひろく顔を募集し、選ばれた「実在する一人の顔」を東京の空に浮かべるプロジェクトで、現代アートチーム目 [mé] のアーティストである荒神明香が中学生のときに見た夢に着想を得ています。個人を最も表象する顔を、現代の東京という極めて公的な風景の中で見るという、「個」と「公」の関係の中に私たちの存在を問うもので、この圧倒的な光景が、今日、様々な困難に直面する私たちに、新たな「ものの見方」を示唆するものになれば幸いです。

当プロジェクトは、「遭遇的」な作品との出会いを通して「それぞれの主体的な体験を重視したい」というアーティストの思いを基に、浮上日時や場所を事前には公表せず実施しました。それぞれの場所、時間、環境で鑑賞し、共有できる作品として、ライブ配信やSNS、マスメディアなど、様々なチャンネルを通じて多様なかたちで出会っていただきたいと思います。浮上した顔はおおよそビル6-7階分の大きさで、顔のモデルや浮上方法は作家の意向により非公開です。顔の向きが変わる可能性はありますが、固定の場所にて浮上しています。

開催概要

実施日時：2021年8月13日（金）午前4:30～午前9:00

※天候等の影響により、浮上開始後も安全確保のため一時中断、あるいは中止になる可能性があります。

※メンテナンス等、安全運営上の理由により、降下している時間帯があります。

※浮上実施の最新状況は《まさゆめ》公式Twitter (@masayume_me) にてご確認ください。

実施場所：東京 23 区東部

主催 東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京
企画 目 [mé] 協力 P3 art and environment



ライブ配信中！

《まさゆめ》は様々な方法でご鑑賞いただけます。公式WEB サイト、動画サイト、SNS もぜひご注目ください。

●公式WEB サイト <https://masayume.mouthplustwo.me>

SNS などに投稿された画像を、リアルタイムで収集し掲載しています。 #まさゆめ #masayume

●YouTube 公式チャンネル <https://bit.ly/3qQpl1u>

固定カメラからの映像をライブ配信しています。※ライブ配信のみ、アーカイブは残りませんが、後日公式WEB サイトにて記録映像を公開予定。

●SNS Facebook：@masayume.mouthplustwo Instagram：@masayume.me Twitter：@masayume_me

プロジェクトの様子を、SNS を通じてご紹介しています。

現代アートチーム目 [mé]より、メディアのみなさまへ

本作品《まさゆめ》は、オリンピック・パラリンピックを、ただ単に盛り上げようとした企画ではなく、今夏、世界から最も注視される「東京」を舞台としたアート作品です。本作品を通して、私たちの直面している状況やその「意義」に目を向け、人々が主体的に思考をめぐらせるきっかけになればと考えています。難しい面もあるかと存じますが、下記に記載の<アーティスト・ステートメント> <伝えたいキーワード>をご参考の上、本作品のご紹介をお願いできれば幸いです。可能な範囲でご検討くださいますよう、何卒よろしく願いいたします。

<アーティスト・ステートメント> (抜粋)

1964年とは全く違うこの時代、そしてパンデミックの状況下、大きく見失われることになった、私たち人間の行動の根幹を支える「意義」。それを見出すのは、私たちの主体性と想像力に他なりません。現代アートチーム目[mé]は、この人類最大規模の集いに、そしてこのパンデミックの困難な状況に、大きな「意義」を見出そうとすること、そして、その実感を後世に伝えることを、今も尚、諦めていません。

たとえ、この大きな亡失が世界中に途方もなく広がっていたとしても、たった一人の少女の「夢」が、その大きな想像のきっかけになり得ることを私たちは知っています。私たちは、どんな状況であっても意味や理由だけに縛られず、新たな視線を持ってこの世界に対峙しなければならない。人類がいつも想像によって「後から」その意義を掴み、こうしてこの世界に生存し続けてきたように。

<伝えたいキーワード>

世界中が見る圧倒的な「他者」
空に浮かび、SNS やメディアを通じて世界中から見られる巨大な顔は、世界中の人々にとっての「他者」です。この時代、この状況に見る「他者」とは何か?私たちは、他者について、どこまで考えられるでしょうか。
“私”だったかもしれない「顔」
空に浮かぶのは、1,000 以上の応募の中から選ばれた実在する一人の顔です。誰でも応募することができました。つまり、誰にとっても「私かもしれない顔」ということです。もし、応募していたら自分の顔であったかもしれない。そんなことを思いながら、遠いようで、とても身近な、自分事としての作品体験をしてもらえたら嬉しいです。
出現した「謎」の光景
これはアーティスト荒神明香(こうじんはるか)の中学生の時に見た「夢」です。夢に理由はありません。つまりこの作品は、「理由」というものを放棄しているのです。現代社会の中で、あらゆる合理性や、あらゆる理由というものから、例え一瞬だけでも解放され、何にも捉われずに、ただこの光景を見てほしいです。
公共事業として実施する「現代アート」
《まさゆめ》は、Tokyo Tokyo FESTIVAL 企画公募で採択された「現代アート」のプロジェクトです。物事の賛否に加担しない中立性、または事業枠内からの生産的な批判性という、現代アート特有の性質を活かした文化プロジェクトとして、多様な視点から力を合わせて、新たな価値やビジョンの創発に挑戦しています。
コンセプトは「個」と「公」
《まさゆめ》は、「個」人を最も表象する顔を、現代の東京の風景という極めて「公」的な視界の中で見える作品です。また、「一人の少女の夢」を「公的な事業として実施」するという面からも「個」と「公」の関係が含まれています。「個」と「公」という、ある意味正反対の両者を同時に存在させることは、自身の意志によって「ここにいる私」と、偶然「この宇宙に存在している私」という、私たちの存在の両義的な側面にも目を向けさせます。この、私たちの存在の本質的な不思議は、この困難な時代この状況に、向き合わざるを得ない私たちに、あらためて広い視野を届けてくれるかもしれません。
芸術とは、「この世界をもう一度見る」こと
現代アートチーム目 [mé]にとっての芸術は、この世界を何にも捉われずに「見る」ことです。芸術はこれまで実に様々な「ものの見方」によってこの世界を捉え続けてきました。時に世界を抽象的に捉え、時に既存の価値を覆しました。そんな「ものの見方」は、私たちの生存にも直結します。私たちは、意味や理由に埋もれてしまい、どうしても見えなくなってしまうこの世界を、もう一度、想像力を持って新たに捉えたいと思っています。想像力は主体性によって生まれます。大変な状況が続きますが、どうか、共に、この世界を見て、考えましょう。

参考表記

《まさゆめ》をアート作品として見ていただけるように、以下の表記をご参考にしていただけたら幸いです。
※作品として鑑賞していただくためのご提案ですので、あくまでご参考としてご覧ください。

参考表記 (例)	意図
<開催時期について> 世界中から最も注目が集まる時期に実施した など	・東京 2020 大会公式プログラムではない（アンブッシュ・マーケティングになってしまう）ため、本作品の説明には「オリンピック・パラリンピック関連」というワード等は使えません。
<開催意図について> 「この時代を問う」ために実施 「意義」を想像するために実施 など	・東京 2020 大会公式プログラムではない（アンブッシュ・マーケティングになってしまう）ため、「オリンピック・パラリンピックを盛り上げるため実施」というワード等は使えません。 ・アート作品としてテーマやコンセプト(p.2 <アーティスト・ステートメント>、<伝えたいキーワード>参照)を持った表現として発表しています。
<作品について> 立体物、巨大な顔、現代アート作品 など	・技法や素材は非公表としています。 ・立体のアート作品として制作しており、「気球」「バルーン」といった表記は不正確であるため。 ・アート作品として発表しているため、「イベント」といった表記はお控えください。



Photo: Takahiro Tsushima

目 [mé]

アーティスト 荒神明香（こうじん はるか、写真・中央）、ディレクター 南川憲二（みなみがわ けんじ、同・左）、インストーラー 増井宏文（ますい ひろふみ、同・右）を中心とする現代アートチーム。個々の技術や適性を活かすチーム・クリエイションのもと、特定の手法やジャンルにこだわらず展示空間や観客を含めた状況/導線を重視し、果てしなく不確かな現実世界を私たちの実感に引き寄せようとする作品を展開している。代表作に、個展「たよりない現実、この世界の在りか」（資生堂ギャラリー、2014年）、《おじさんの顔が空に浮かぶ日》（宇都宮美術館 館外プロジェクト、2013-14年）、《Elemental Detection》（さいたまトリエンナーレ 2016）、《repetitive objects》（大地の芸術祭 越後妻有アート トリエンナーレ 2018）、《景体》（六本木クロッシング 2019 展：つないでみる、森美術館、2019年）、個展「非常にはっきりとわからない」（千葉市美術館、2019年）、などがある。第28回(2017年度)タカシマヤ文化基金タカシマヤ美術賞、VOCA 展 2019 佳作賞受賞。2021年は個展「ただの世界」（SCAI THE BATHHOUSE）にて新作を発表。

《まさゆめ》とは

年齢や性別、国籍を問わず世界中からひろく顔を募集し、選ばれた「実在する一人の顔」を東京の空に浮かべるプロジェクト。2019年3月から6月にかけて、ウェブサイトやワークショップを通じて集まった顔は1,000以上。顔を選ぶための参加型公開ミーティング「顔会議」（2019年6月23日実施）などを経て、2020年夏に実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け延期。これまで、「背景が東京であることの意味」や「作品を観ること」についてなど、多くの方々とプロジェクトの本質を共有しながら進めてきた。
公式WEBサイト <https://masayume.mouthplustwo.me>

これまでのながれ

顔募集 2019年3月26日～6月30日

東京の空に浮かぶ顔の候補を、世界中から大募集。
顔候補を探索・収集する「顔収集ワークショップ」も都内各地で実施。



顔会議 2019年6月23日

世界中から集まった老若男女の顔からただ一人を選ぶため、誰もが参加できるオープンな会議を開催。



トークセッション・シリーズ 2020年4月11日、12日、14日

ゲストと共にプロジェクトを様々な視点から見直す関連プログラムをオンラインにて開催。

顔浮上 2020年夏(延期) ⇨ 2021年夏

東京の空に巨大な顔が浮かび、選ばれた顔が公開されました。



顔募集 (2019年3月26日～6月30日)

年齢・性別・国籍問わずひろく世界中から、空に浮かぶ“顔”候補の募集をおこないました。正面、右側面、左側面、背面の4方向から撮影した顔写真を用意するだけで誰でも応募できる特設WEBページからの応募のほか、目[mé]のメンバーとともに街へくり出し、顔候補を探索・収集する「顔収集ワークショップ」を都内各地で実施しました。顔収集活動自体も東京にとどまらず、国内外にまでひろがりを見せ、予想を上回る1,000人以上の方々にご応募いただきました。

顔募集レポート <https://masayume.mouthplustwo.me/articles/report-opencall.html>

顔会議 (2019年6月23日)

さまざまな人と意見やアイデアを交換することで、世界中から集まった老若男女の顔から、ただ一人を選ぶための手がかりを探るべく、「顔会議」を開催いたしました。会議はYouTube、Facebook、Instagramでもライブ配信し、のべ3,400人が視聴。オンラインからもたくさんのコメントをいただきました。

顔会議レポート <https://masayume.mouthplustwo.me/articles/report-facemeeting.html>

トークセッション・シリーズ (2020年4月11日、4月12日、4月14日)

関連プログラムとして全3回の「トークセッション・シリーズ」をオンラインにて開催しました。2019年春から動き出した《まさゆめ》をあらためて様々な視点から探求することを目指し、「街と人」「見ること」「東京の風景」という3つのテーマのもと、異なる専門性をもったゲストと目[mé]のメンバーが対談しました。

トークセッション・シリーズ レポート <https://masayume.mouthplustwo.me/articles/report-talksession.html>

Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル 13 とは

斬新で独創的な企画や、より多くの人々が参加できる企画を幅広く募り、Tokyo Tokyo FESTIVAL の中核を彩る事業として、東京都及び公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京が実施するものです。

国内外から応募のあった2,436件から選定した13の企画を、「Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル 13」と総称し、展開しています。

公式WEBサイト <https://ttf-koubo.jp/>

Tokyo Tokyo FESTIVAL

公式WEBサイト <https://tokyotokyofestival.jp/>

【取材のお申し込み・お問い合わせ】

まさゆめ PR 事務局

E-MAIL : masayume@xpd-inc.co.jp

TEL : 090-3682-9213 (齋藤) 070-2170-0159 (宮城)

【本事業に関するお問い合わせ】

まさゆめ事務局

E-MAIL: masayume@mouthplustwo.me

TEL:070-1568-9864(明石)